

令和4年2月15日(火)

全国知事会 新型コロナウイルス緊急対策本部(第33回)における丸山知事 発言(発言要旨)

1. 医療ひっ迫の実態について

感染状況の把握について、(感染状況を表す指標として)PCR等の検査の陽性率という数字があり、WHOは10%未満が望ましいとしている。これを超えると、検査が十分に行きわたらず、感染者数を十分に把握できていない恐れがあると見なされる。この10%の3倍にあたる30%を超える(地方公共)団体が、2月10日の内閣官房の資料によると、47都道府県の中で、24団体、半数以上になっている。

これは、もう感染者数の正確な把握ができていない状況だと判断すべきであり、現在の感染者数で、ピークアウトを判断できるような状況ではないため、死者数、死者に着目していくしかないと思っている。

今、全国でどんな状況が起きているかわからないので、日々、「医療ひっ迫」「医療崩壊」という言葉を使って、Twitterで検索している。

今日の朝見つけた、昨日の月曜日のツイートを紹介させていただく。

『父が今朝方亡くなりました。介護施設でのクラスターで、コロナ陽性になりましたが、「中等症等は施設で見よ」という〇〇県の通達に従い、施設に留まりました。

SpO₂が、70代まで低下するも、搬送先が見つからず、嘱託医とも連絡がつかず、朝まで酸素無しで頑張りました。死因はコロナでなく心不全。これが日本ですか？

施設の方も、感染で半数以下の人員に減っている中、自身も感染の恐怖のなか、ギリギリの状態頑張って下さった皆さんには感謝しかありません。急変の連絡をくれた職員さんは、嗚咽して泣いていました。もう、現場は限界を超えています。酸素到着まで半日、投薬も点滴も、ろくな診療も受けられないままでした。

死亡確認で搬送された救急外来の処置室窓越しで見たのが久しぶりで、最後の父の姿でした。ここから父は納体袋に入り、触れることも顔を見ることもかなわないまま、火葬の順番待ちでコロナ専用の安置所へ向かいます。志村けんさんが亡くなられた2年前から何も変わっていないのですね』

というものである。

私は、こういう死亡例がないかどうかを、一度、各県が1週間分検証すべきだと思える。そして、そういう事例が見受けられれば、もう緊急事態宣言を出すべきだと思う。

大阪府に対して、「まだやっていただくことがある」というような政府の判断(政府高官の発言)があったが、新型インフルエンザ等特別措置法上、緊急事態宣言は、一定の要件に達した場合、政府対策本部長である総理大臣は宣言を出すのが義務とされていることから、(出していない現状は)法律違反の疑いがある。きちんと法律に基づき、緊急事態宣言を出してもらう必要があると考えている。

2. オミクロン株への対応について

オミクロン株の特性に応じた対応として、人流抑制や濃厚接触者の行動制限を無くしていくという考え方が、この会議の中でも示された。

今の状況は、「(オミクロン株による感染が)重症化率が低く、重症や死亡になりにくい」という楽観要素を、「感染力が強く、多数の感染者を発生させる」という悲観要素が大きく上回ってしまって、結局、医療ひっ迫、医療崩壊を招いているという状況である。

重症化率が低いことに油断したことを反省し、感染者数の減少を、自然の成り行き、ピークアウトに任せて、期待するということをやめるべきである。

ある県で行われている、自宅療養者への食料の提供を止めて、陽性者である自宅療養者に食料の買い出しを認めるという取扱いは、感染拡大を許容しているとしか思えない。感染者数が多いから業務を合理化する、省力化するという水準を既に超え、感染者数が多いから、(こうした対応で)仕方がないという、開き直っている対応としか思えない。

こういった対応は、もう止めるべきである。こうした扱いを受けた県民が、素直に自宅にいてくれるかどうか、真面目に考えるべきである。

こういった考え方を改めて対応していかないと、取り返しがつかなくなる。

重症化者に対応すればいいと言っておきながら、重症化者に対応できず、医療ひっ迫を招いている現状は、(これまで)感染者数の拡大を抑えていくということを軽視してきたツケが回ってきている状況だと思っている。

また、いくつかの大都市圏の知事から、高齢者を守る対応をすべきだ、小中学校の感染対策を徹底すべきだという発言があったが、これまで対応をやっていて、今こういう状況になっているので、具体的に何をするか提案がなければ、空理空論に過ぎないと思う。

高齢者施設も学校も、(その先には)家庭があるため、学校等を介して、家庭での感染が広がっているうちは、高齢者も子どもも守りようがない。

高齢者を守る、学びを保障するなど言いながら、実際は、感染を恐れる保護者や子どもを無理やり学校に行かせたり、または、嫌ならば学校に来なくていいという状況であり、学びを保障していない。

こうした現状を早く改め、空理空論の議論を止めるべきである。

日本の感染症の専門家の方々には、学校に手をつけずに何とかなるような状況なのかどうか、もう1回きちんと検討していただきたい。